
【神戸学院大学現代社会学部現代社会学科ゼミナール I / 現代社会基礎実習 I
(担当：番匠健一) 第6回】
2022年5月27日 (金)

■■ メイン資料 ■■

■ 講義テーマ

[Fieldwork] 街の文化をかたまりでつかむ
——古本・映画・レコード・喫茶を軸として (2)

◆ ゲスト講師：村上 潔 [Murakami, Kiyoshi]
(立命館大学生存学研究所客員研究員)

◆ 集合場所・時間

◇ 13:45 JR元町駅東改札口南側広場【集合】

* 地図：<https://www.jr-odekake.net/eki/premises?id=0610144>

◆ 解散場所・時間

◇ 15:15 神戸市立こうべまちづくり会館【解散】

* 地図：<https://kobe-machi-kaikan.city.kobe.lg.jp/access/>

◆ 注意点

- ◇ マスク着用のこと。その他の感染症対策も十分意識して参加してください。
- ◇ 行程の大半は屋根のない道路を歩くことになるので、雨具を各自持参してください。
- ◇ 途中休憩はありません。飲料水を各自持参し、適宜水分補給してください。トイレは解散場所の〈神戸市立こうべまちづくり会館〉内で利用できます。
- ◇ 訪問する各お店の外観の写真撮影は控えてください（公的施設・映画館は可）。撮影（→公開）したい場合は、後日個人的にお店を訪問して、店主さんに許可をとって行なってください。
- ◇ スマートフォン等で資料を確認するのは、立ち止まったときにしてください。歩いているときは、通りの風景全体をよく観察し、視覚以外の感覚も意識して空間の雰囲気を感じるようにしてください。

◆ 実施趣旨・概要

街 [まち] の文化というものは、ターミナル駅にオフィスビルやショッピングセンターやアミューズメント施設があるから / できたから維持されるわけではありません。

文化の土台を構成するさまざまな分野の、さまざまな機能を担う場所が、一定の区域に密集して存在し、それらが有機的につながり、日常的に人々の流れが行き交い、モノやお金以外のやりとりが活発になされることで再生産されるものです。

それは、「トレンド」や「マーケティング」といった文脈からは距離をとった次元にあり、大きな「経済」・「消費」の観点からは見出し難いものです。「地域の活性化」といった観点で括るのも——そう括られがちですが——少しずれています。

では、なにがその根底にあるのか。私たちはどうやってその「世界」にアプローチしていけば、そのおもしろさに到達できるのか。実際に街を歩くことで、それを考えるきっかけをつかみましょう。

このフィールドワークでは、元町駅から花隈エリア（元町通4丁目）までの短い区間を歩くなかで、古本・映画・レコード・喫茶に関係する約20か所のスポットを紹介していきます（時間の問題、人数の問題があるので、各お店や施設の中には入りません）。

歴史、世代間継承、ジャンルへの情熱、ジェンダー……。いろいろなポイントがありますが、まずは地理的・空間的に、その様態を感じ取ってください。そして、個々の場所がもつ魅力や、エリア全体がもつポテンシャルをじっくり考えてみましょう。気になった場所は何度も再訪して、そこにいる人と話をしてみましょ。きっとそこでなにかがわかってきます。街の文化の真ん中に飛び込み、身体的に楽しむこと。その感覚をつかむことが、この講義の目的です。では歩きましょう。

■行程表 [予定：90分／すべて徒歩移動]

▽JR元町駅東改札口南側広場 *集合・出発地点 *趣旨説明

↓

◇りずむぼっくす神戸元町店【レコード】

cf. <https://donutsmagazine.com/store/rhythmbox/>

↓

◇ちんき堂【古本】

cf. <https://news.yahoo.co.jp/articles/7c17c809c0bb11f537c2e885125adfc66d899de7>

↓

◇汎芽舎 [はんげしゃ] 【レコード】

・2005年～

・ポストパンク／ジャーマン・ニューウェーブ

cf. <https://donutsmagazine.com/store/shirahase-tatsuya-10/>

↓

◇ROCK'N ROLL AIDS PRODUCTION 【レコード】

cf. <https://kisspress.jp/features/2723/2/>

↓

◇ジャズ喫茶 jam jam 【ジャズ喫茶】

- ・1989年～
- ・2000年移転オープン
- ・リスニング席／会話席
- ・ノーザンソウルのイベントも
- * 参考資料 (2) 文献リスト参照

cf. https://www.kobejazz.jp/jazz_report/vol18.html

cf. <https://kobecco.hpg.co.jp/45520/>

cf. <https://www.kobe-np.co.jp/news/odekake-plus/news/detail.shtml?news/odekake-plus/news/pickup/201809/11669665>

↓

◇エビアンコーヒーショップ【喫茶】

- ・1952年～
- ・関西におけるサイフォン式コーヒーの先駆け

cf. https://colocal.jp/topics/lifestyle/class-kobe/20160301_65848.html

↓

◇ハックルベリー【レコード】

cf. https://www.kobejazz.jp/jazz_report/vol121.html

↓

◇Record Bar Braque【レコードバー】

- ・2009年～
- ・1970～80年代洋邦楽

cf. https://www.kobejazz.jp/jazz_report/vol151.html

cf. <https://kobecco.hpg.co.jp/29360/>

+

◇Space eauuu【イベント・スペース／ギャラリー／カフェ】

cf. <https://twitter.com/spaceeauuu>

↓

◇M&M ジャズ喫茶【ジャズ喫茶】

- ・1997年～
- ・2012年に店主引き継ぎ
- * 参考資料 (2) 文献リスト参照

cf. https://www.kobejazz.jp/jazz_report/vol74.html

+

◇うみねこ堂書林【古本】

- ・2014年4月～
- ・横溝正史／ミステリー

cf. <https://book-life.net/umineko/>

cf. <https://kobecco.hpg.co.jp/9096/>

↓

◇古本の読尊 [どくそん] 【古本】

・2016年～

↓

◇〈海文堂書店〉跡地

・1914年～2013年

・長く神戸の知的・文化的活動を支えた拠点=象徴的存在

・現在でも元町界隈の本（古本）にまつわるシーンの「磁場」

*参考資料（2）文献リスト参照

cf. <https://kobe.keizai.biz/headline/1464/>

cf. ギャラリー島田：<http://www.gallery-shimada.com/01/history/index.html>

↓

◇古本 荒野【古本】

・2019年3月～

cf. https://twitter.com/furuhon_koya

↓

◇ポエム【喫茶】

・1969年～

・海岸通〈喫茶ラン〉を2019年11月に引き継ぎ4号店とする

・神戸を舞台とした映画のロケ地にもなっている

cf. <https://kissapoem.com/>

cf. <https://www.kissa-nostalgia.net/kissa-hyogo-ran>

↓

◇花森書林【古本・雑貨・ギャラリー】

☆店主さんにお話を伺う+資料を提供していただく

・旧〈トンカ書店〉（2005年～2018年／トアウエスト）

・2019年2月移転オープン

・フリーペーパーも多数常設

*参考資料（2）文献リスト参照

cf. https://www.kobe-np.co.jp/news/kobe/202108/p3_0014599949.shtml

cf. <http://bibou726-49.jugem.jp/?eid=245>

↓

◇元町映画館【ミニシアター】

☆支配人の林さんにお話を伺う

・2010年8月～

・「映画ファン立 [りつ] 」

・学生による〈映画チア部〉

*参考資料（2）文献リスト参照

* 本資料末尾の追加資料参照

cf. <https://www.asahi-family.com/entertainment/29206>

cf. <http://www.cinema-st.com/mini/m060.html>

↓

◇本の栞【古本】

・ 2020年9月～

* 参考資料 (2) 文献リスト参照

cf. <https://kisspress.jp/articles/29555/>

+

◇honeycombBOOKS* [ハニカムブックス] 【古本 (絵本) ・ 雑貨】

・ 2008年8月～

* 参考資料 (2) 文献リスト参照

cf. https://note.com/reading_mug/n/n51d2676e5839

↓

◇神戸古書倶楽部【古本】

・ 兵庫県古書組合加盟の9店が合同で運営

cf. <http://hirunekodou.cocolog-nifty.com/jikki/cat22512050/index.html>

+

◇マルダイ書店【古本】 * 跡地 (2022年4月17日 : 兵庫区上沢通8丁目に移転)

・ 2020年3月にモトコー (元町高架通商店街) から移転

cf. <https://www.kobe-motomachi.or.jp/shop-search/350>

↓

◇サンコウ書店【古本】

・ 1996年～

・ 2020年10月にモトコーから移転

* 参考資料 (2) 文献リスト参照

cf. <https://www.sankoubooks.com/news/>

+

◇純喫茶ベア【喫茶】

cf. <http://junkissa.blog.jp/archives/1077349248.html>

↓

◇神戸元町みなと古書店【古本】

・ 2019年10月～

・ 市内で営業する7店が共同で運営

・ 店番は若手店主らが交代で

・ 〈こうべまちづくり会館〉改装にあわせ営業開始

* 参考資料 (2) 文献リスト参照

cf. <https://mainichi.jp/articles/20190919/k00/00m/040/211000c>

▽神戸市立こうべまちづくり会館 *解散地点 *村上によるまとめの解説
cf. <https://kobe-machi-kaikan.city.kobe.lg.jp/>

◆今回は時間の関係で訪問できなかった（が本来は紹介するつもりだった）場所

◇1003 [センサン] 【リトルプレス／古本】

- ・2015年9月～（走水通）
- ・2020年12月移転オープン
- ・ジェンダー／フェミニズム関連が充実
- *参考資料（2）文献リスト参照

◇CAFE DE J'AIME [カフェ・ド・ジェーム] 【喫茶／イベントスペース】

- ・1981年～

cf. <https://kobe.keizai.biz/headline/2339/>

◇spacemoth/friper ZOETROPE [スペースモス／フリピエ・ゾエトロープ] 【ヴィンテージ古着・雑貨】

- ・2001年～
- ・トアウエストから移転
- ・音楽・映画との深い関係

*参考資料（2）文献リスト参照

cf. https://colocal.jp/topics/lifestyle/graeme/20160809_77306.html/3

cf. https://note.com/moviecheer_osaka/n/nc144b298ebc3

cf. 栄町ビルディング：<http://kobe-kobecco.com/archives/26872>

◇Cafe Cru. [カフェ・クリュ] 【カフェ】

- ・2001年～
- ・〈元町映画館〉（真裏に立地）との活発なコラボ

*参考資料（2）文献リスト参照

cf. <https://mainichi.jp/articles/20170902/ddl/k28/040/403000c>

cf. <https://motomachieigakanstory.amebaownd.com/posts/20988319>

◇はた珈琲店【喫茶】

- ・1978年～
- ・自家焙煎深煎り珈琲一杯点て

cf. <https://kobe.keizai.biz/headline/4/>

.....
* すぐ近くを通ったけれど時間の都合で紹介できなかった場所

◇元町サントス【喫茶】

- ・1960年～

cf. <https://jocr.jp/raditopi/2021/11/11/399383/>

◇レトロ倶楽部【古本】

cf. <https://kisspress.jp/features/2723/4/>

◆さらに足を延ばせば……

◇古書ノーボ【古本】（花隈）

<https://twitter.com/koshonovo/>

◇MOKUBA'S TAVERN（木馬）【ジャズ喫茶】（トアロード）

<https://kobecco.hpg.co.jp/42224/>

◇TEA & library CORENOZ [コリノズ] 【ブックカフェ】（中山手通）

<https://www.instagram.com/corenoz/>

◇清泉堂書店【古本】（三宮センタープラザ）

<https://www.seisendou-kurachishoten.com/>

◇あかつき書房【古本】（三宮センター街）

<https://akatsuki-shobo.com/>

◇茶房JAVA【ジャズ喫茶】（三宮駅高架下）

<http://jazztownkobe.jp/spot/java/>

■要点整理——考えること

◆空間的な流れ+行動様式

①古本を買う→喫茶店で読む

②映画館で映画を観る→喫茶店で議論する

③ジャズ喫茶でレコードを聴く→そのレコードを探しにレコード屋へ

+

・演劇を観る

・ライブに行って音楽を聴く

・ディスコ/クラブで踊る

+

・古着屋で服を買う

・雑貨屋でアクセサリ等を買う

・居酒屋やバーでお酒を飲む

……まずは実践してみる→歴史を知る

◆鍵になる概念

◇身体性——歩く・語る・（コーヒーの）においをかぐ・味わう・酔う……

◇共同性——（親しい/見知らぬ）誰かと（偶然）場をともにすること

◇都市性——流入と流出/近代化の進展（産業・流通・建築）/港湾都市の機能/学生文化

……感覚を重視して街を歩くことから→上記の要素を全体として捉えていく

*【補】「都市性」:

[a] 労働者（港湾労働・工場労働 etc.）の文化

[b] 芸術家（詩人・画家 etc.）の文化

——両者が混在しているおもしろさを感じ取る

*【補】「港湾都市」：

┆ コーヒーやジャズ（+洋酒+輸入雑貨）がごく身近にある理由

┆ 〈海文堂書店〉はもともと海図・海運・船舶関係の専門店

◆変わる／変わらない要因

◇環境——都市再開発による空間とコミュニティの変容

┆ 【例】モトコー（元町高架通商店街）から多くのお店が撤退→移転

◇時代——1960・70年代の政治・文化状況からの距離

┆ 書店・喫茶店・映画館の減少【A】

◇世代——「若者文化」の変質／代替わりして引き継がれていくもの

┆ 【A】の状況への危機感から新たな試みが生まれる

◇ジェンダー——担い手・主要客層が年長男性→若年（若手）女性へと徐々にシフト

┆ 古書店・映画館：かつてはほぼ年長男性のみの世界

→女性店主・女性支配人の増加→女性客・若者の参入

……それらがどのような現象として表れているのかを（実際に現地を歩き話を聞いて）具体的に調べる

◆ぱっと見ではわからないがアプローチしてみるとわかる街の中の関係性

◇古書店間のつながり

┆ 共同で店舗を運営／定期的に古本市を開催

◇古書店とギャラリー／アートシーンのつながり

cf. 本資料末尾の追加資料参照

◇〈元町映画館〉：多様な業種とのタイアップ企画

┆ 〈1003〉【本】・〈spacemoth/fripiet ZOETROPE〉【古着・雑貨】・〈Cafe Cru.〉【カフェ】・〈優里〉【割烹】etc.

……お店単位で／業種ごとに分断して捉えがちな認識枠組みを組み換える

=相互に協力して様々な文化的シーンを底上げしていこうとする流れに注目する

◆街を歩くこと・街を感じる事・街で出会うこと・街に働きかけること

◇それによって私たちの生活・感受性・価値観・行動・コミュニティはどのように変わってきたのか／いくのか——を考える

◇自分たちではどうすることもできないように思われる街の「変化」に対してできることはなにか——を考える

┆ 「ただの学生だから……」と諦めてしまう前に

┆ 卒業後も（働きながらでも）関わり続けられるような関係性をもてるように

■参考資料

◆すでにある資料

◇参考資料 (1)

記事引用6点 (A4×6ページ)。当日集合場所で印刷したものを配布します。

◇参考資料 (2)

| 神戸学院大学現代社会学部現代社会学科2021年度《ゼミナールII/現代社会基礎実習II》(担当: 番匠健一) 第7回「[Fieldwork] 街の文化をかたまりでつかむ——古本・映画・レコード・喫茶を軸として」(2021年11月5日/ゲスト講師: 村上潔)

【資料 (PDF: A4/21p.)】<http://www.arsvi.com/2020/20211105mk.pdf>

◇参考資料 (3)

| 田中東子・村上潔「[『ガールズ・メディア・スタディーズ』刊行記念トーク(神戸編)] 女の子とコミュニティ——ジン・カルチャーの視点から見る神戸文化」(2021年11月13日/於: 1003)

<http://www.arsvi.com/2020/20211113mk.htm>

◆追加資料

◇黒川裕生「映画ハシゴの強い味方! 割烹特製「まくあいにぎり」誕生 上映の合間に急いで食事をかき込む映画ファンを見かねて考案」, 『まいどなニュース』2022年4月19日, (<https://maidonanews.jp/article/14602004>)

—“【引用】神戸の名物ミニシアター「元町映画館」が、東隣の割烹とコラボ。映画の合間に気軽に食べられる「まくあいにぎり」を4月23日から販売する。休憩時間に映画館の前などで急いで軽食をかき込む人がいるのを気の毒に思った割烹の店主が考案。具はチキンカツとだし巻き卵の2種類1セットで、映画のチケット購入時に300円で買える引換券をもらえる仕組みだ。| 元町映画館は2010年8月に誕生。神戸元町商店街の一角にあり、独自のラインナップで映画ファンの支持を集めている。東隣の持ち帰り専門の割烹「優里」は2021年7月に開業したばかり。食材と出汁にこだわった弁当が人気で、映画の合間に利用する人も多い。過去には上映作「シュシュシュの娘」にちなんだ弁当を販売して反響を呼んだこともあるという。”/“「まくあいにぎり」は元町映画館がTwitterで商品名を募り、寄せられた50ほどのアイデアから決定。愛らしいロゴもTwitterユーザーが提供してくれたという。林さんは「幕間の食事に困っていた人たちの力強い味方になる」と喜び、安川さんも「おにぎりをきっかけに、店のファンが増えてくれれば嬉しい」と期待する。”

◇大矢哲紀「「色んな作品を観て、常識を疑っていきたい」8/23学生がミニシアターにできること」, 『元町映画館ものがたり』2021年8月31日, (<https://motomachieigakanstory.amebaownd.com/posts/20741087/>)

—“【引用】書籍「元町映画館ものがたり」刊行記念RYUSUKE HAMAGUCHI 2008-2010 Works PASSION/THE DEPTHSと題して8月21日より1週間に渡って開催した上映&トークセッション。|3日目は『PASSION』上映後に映画チア部OBでフリーライターの大矢哲紀が司会を務め、現部員の東真優と梁瀬萌乃花が登壇。これまでの映画チア部の活動を振り返りながら、学生がミニシアターにできることをテーマにトークを行った。”/”最後には、現在公開中の『まっぱだか』の片山亨監督からも質問があった。トークイベントのタイトルに合わせ、「自分がミニシアターに出来ることは何だと思いますか？こうなってほしいという具体的なイメージはありますか？」という質問を受け、東が「動画配信サービスが主流となり、映画との距離は近くなったけれど、映画館への距離は遠くなった」という現状に触れつつ、「映画館は大きなハードルだけれど、感動を共有出来たり、出会いの場となれば良いな」という願望を語った。”/”一方、梁瀬は、元町映画館で常に色々な映画が上映されていることに触れ、「年を取れば取るほど、常識は疑えなくなってしまう。だからこそ、今のあいだに色々な作品を観て、常識を疑っていきたい。若者にそんな場を提供できたら」と語った。”

◇「神戸で芸術活動行う「C.A.P.」が会報誌創刊 書店やギャラリーで販売も」（『神戸経済新聞』2022年5月24日、<https://kobe.keizai.biz/headline/3834/>）

—“【引用】神戸市立海外移住と文化の交流センター（神戸市中央区山本通3）内で活動する団体「C.A.P.（芸術と計画会議）」（TEL 078-222-1003）が5月1日、サポーターシップマガジン「capsule（キャプスル）」を創刊した。[…]20年以上にわたってプロジェクトを進める中、さまざまな人たちと関わってきたという同団体。同冊子では、活動を支える寄付者（サポーターシップメンバー）をはじめ、神戸やアートに関心のある人たちをターゲットに、街、暮らし、アート、C.A.P.とつながりのある国内外の人々のことを生活者の視点に寄り添って紹介する。冊子名は「CAP+スル？」という言葉遊びから名付けた。[…]1冊500円。年3回発行。「ギャラリー島田」「自由港書店」「1003」「ワールドエンズガーデン」「花森書林」など、神戸市内の書店やギャラリーで販売する。サポーターシップへの参加、神戸市のふるさと納税制度を通じて同団体へ寄付することで無料進呈も行う。|河村啓生編集長は「私たちの現在進行形の活動として、アーカイブされる街やアートの姿として、多くの人に手に取っていただき、読んでもらいたい」と話す。「今後、海外への配布も行い、海外のアートコミュニティの話題も神戸に紹介していく」とも。”

___ 以上 ___（文責：村上 潔 2022/05/26 [改訂：2022/05/28]）